

白老町町制施行70周年記念 おかしばなしのおへや上映会

白老ふるさと昔話制作事業実行委員会が町制施行70周年を記念して制作していた子ども向けのアイヌの昔話が完成しました。11月23日(土) 13時からウポポイ（民族共生象徴空間）において上映いたします。ゲストとしてタレントの上杉周大さんが登場するほか、昔話の語り役の夏木マリさんからのビデオレターも披露されます。

日 時 11月23日(土) 12時45分～13時45分

場 所 ウポポイ 体験交流ホール

上映作品 「金の声 銀の声」「ふんべ山」「きつねのチャランケ」の3話

料 金 上映会の鑑賞は無料（※ウポポイの入場料・駐車料は別途必要）

申し込み 11月20日までに下記へ電話してください。



同実行委員会は作品を収録したDVDと紙芝居を町内の小中学校や保育園などに寄贈（DVD50本、紙芝居20冊）します。昔話は9月22日にテレビ放映（BS）されています。

問い合わせ先： 白老ふるさと昔話制作事業実行委員会 事務局(株)ケイホク事務所内
高山・本間 ☎87-2311

町民限定年間パスポートでウポポイへ行こう！

7月にウポポイ年間パスポート無料引き換え券はがきをお届けしましたが、年間パスポートの引き換えはお済みでしょうか？年間パスポートを持っている町民は、発行日から1年間は何度でもウポポイに入場することができるほか、ウポポイの駐車料金が無料になります。

ウポポイでは11月17日まで特別展示「驚異と怪異-想像界の生きものたち」を開催しております。

10月から14時以降入場料半額に

ウポポイは10月1日から14時以降の来場者を対象に半額入場券を販売しています。大人は1,200円が600円、高校生は600円が300円になります。中学生以下が無料。期間は来年3月30日までです。

知っておこう アイヌ文化

アヨロ

イランカラプテ。虎杖浜地区を流れるアヨロ川。
アヨロの語源は松浦武四郎の『東蝦夷日誌』によれば「アイヲロ（矢を納む）」と記されていますが、正確な意味がわからない地名です。知里真志保の『分類アイヌ語辞典 人間編』によれば、アイヌ民族の言い伝えとして、かつてアヨロにはかなり大きな村があり、ある時、モシリパウンクル（十勝地方の人々とも日高地方の人々とも言われている）が函館方面へ交易に向かった帰り、60艘の船団を率いてアヨロに寄港したと言います。寄港の目的は函館で天然痘に感染した者をわざとアヨロで下船させるためでした。モシリパウンクルはアヨロの首領であったカムイエカシから食器を借りて酒宴を開き、3日後に返却したものの、その食器に天然痘患者の膿汁を塗り付けたため、アヨロの村人たちは瞬く間に天然痘によって死んだと言います。カムイエカシも感染して死の直前にイナウ（木幣）を作り、それを手に持って呪言を唱え、イナウは談判の声と共にモシリパウンクルの船団に向かって東の空に飛び去り、むかわ沖を航行していた船団にカムイエカシの談判の声が届くと、突如、大波が起こって、60艘の船全てが海の藻屑と消えたのでした。イナウがその後しばらく海岸で談判を続けたことに由来して、入鹿別（イルシカ・ベツ：怒る・川）と呼び、現在も厚真町とむかわ町の境を流れる川の名前になっていると言います。



アヨロ海岸周辺には多くのアイヌ語地名の他、チャシ（砦）跡もある

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301